

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌コンサートホール Kitara	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	22,437	(千円)
	公 演 事 業	6,651 (千円)
	人 材 養 成 事 業	4,925 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	10,861 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	＜開館25周年記念＞ Kitaraのバースデイ	令和4年7月2日(土)	オルガン・チェンバロ・ポジティブ オルガン／ニコラ・プロカッチーニ 演出・人形／沢 則行(人形劇師)他	目標値	1,110
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,376
2	Kitaraのクリスマス	令和4年12月24日 (土)	指揮／三ツ橋 敬子、ソプラノ／伊藤 晴、テノール／城 宏憲 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	1,410
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,144
3	Kitaraのニューイヤー	令和5年1月14日 (土)	指揮／鈴木 優人 箏／LEO 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	1,410
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,702
4	ダネル弦楽四重奏団	令和4年6月4日 (土)、5日(日)	ダネル弦楽四重奏団	目標値	500
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	522

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	リスト音楽院セミナーシリーズ～第25回リスト音楽院セミナー&ハンガリーの俊英たち	令和5年2月18日 (土)、22日(水)～27日(月)	講師/イシュトヴァーン・ラントシュ(ピアノ)、ミクローシュ・ペレーニ(チェロ) 他	目標値	リスト音楽院セミナー受講生/35名、聴講生/46名 コンサート(4公演)、特別レクチャー&公開レッスン/810名
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	リスト音楽院セミナー受講生/44名、聴講生/78名 コンサート(4公演)、特別レクチャー&公開レッスン/ 1,250名
2	ひろがる!つたわる!オルガンのひびき	令和5年1月28日 (土)	オルガン・お話/石丸 由佳※	目標値	30名
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	791名

3	札幌の奏響（ひびき）Ⅲ	令和5年3月11日 （土）	指揮／阿部 博光、大嶋 恵人 管弦楽・合唱：札幌音楽家協議会	目標値	300名
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	415名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Kitara あ・ら・かると	令和4年5月3日 (火・祝)～5日 (木・祝)	札幌交響楽団、市内中学校吹奏楽部、 地元音楽大学推薦の学生、ニコラ・ プロカッチーニ 他	目標値	12,000名
		札幌コンサートホール		実績値	7,911名
2	Kitara ファースト・コン サート	令和4年10月13日 (木)・14日(金) 10月25日(火) ～10月28日(金)	指揮／マティアス・バーメルト、川 瀬 賢太郎、管弦楽／札幌交響楽団 オルガン／ヤニス・デュボワ 他	目標値	20,000名 (教員、 関係者を 含む)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	17,225名 (教員、 関係者を 含む)
3	Kitara アフタヌーンコン サートシリーズ	令和4年6月12日 (日) 8月13日(土) 9月23日(金・祝) 11月12日(土)	バロック・ヴァイオリン／若松 夏美 声楽／びわ湖ホール声楽アンサンブ ル、野平 一郎、東京六人組 他	目標値	1,740名 (小ホー ル公演 300名×3 公演、大 ホール公 演840 名)
		札幌コンサートホール 大・小ホール		実績値	1,592名
4	オルガンアウトリーチコ ンサート	令和4年 7月21日(木) 9月2日(金)	オルガン／ニコラ・プロカッチーニ オルガン・通訳／吉村 怜子	目標値	3校計約 200名 (実施校 と協議の 上決定)

		札幌市立八軒北小学校 札幌市立西野小学校		実績値	2校 計107名
5	クリスマスオルガンコンサート	令和4年12月17日 (土)	オルガン／ヤニス・デュボワ、指揮 ／大木 秀一、市立札幌旭丘高等学校 合唱部、札幌山の手高等学校合唱部	目標値	1,100名
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,267名
6	パイプオルガン特別講義& オルガン体験レッスン	令和4年 5月30日(月) 6月21日(火)	講師／ニコラ・プロカッチーニ(札 幌コンサートホール専属オルガニス ト)	目標値	140名
		札幌コンサートホール 大リハーサル室 大ホール		実績値	166名 (特別講 義156名 /体験レ ッスン10 名)
7	障がいのある方を対象と した音楽ワークショップ 「子どものための音楽ワ ークショップ 障がいを超 えて楽しめるコンサート」	令和4年9月14日 (水) ①10:30~②13:45~	おとみつく(ピアノ／坂本 夏樹・桜 井 しおり、打楽器／和波 さやか、 フルート／磯野 恵美) 他 ※一般非公開で実施	目標値	30名
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	98名 (児童、 引率、見 学者含 む)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>札幌コンサートホールでは、市民と音楽の喜びを分かち合う「音楽とともにある街、札幌」をつくる拠点であることをミッションに掲げている。それを達成するために、①質の高い音楽鑑賞機会の提供、②次世代の演奏家の育成や新たな聴衆の開拓、③子どもたちが音楽と出会い、感性を育む機会の充実、④音楽文化の拠点として地域貢献できるホールの運営、⑤安心・安全で快適な環境の提供、⑥運営の透明性と利用者の声の反映、以上6つの方針を示している。前述の方針に基づき、令和4年度事業は、コロナ対策を講じながら、海外アーティストを招聘するラインナップとし、クラシック愛好家はもちろん、クラシック初心者や若年層も気軽に音楽を楽しめる良質な事業をバランス良く組み立てることができた。特に新たな取り組みとして、「Kitaraのバースデイ」（公演1）では、キタラ専属オルガニストと北海道出身で世界的に活躍する人形劇師による巨大人形及び映像演出のコラボレーションを行い、新たな観客の開拓と音楽専用ホールとしての新しい可能性を見出すことができた。また、特別支援学校及び支援学級に通う児童を対象とする「障がいのある児童を対象とした音楽ワークショップ」（普及啓発7）は、文化施設に足を運ぶことの難しい子供たちに音楽体験の場を創出することができた。</p> <p>概ね全ての公演が予定通りに進行したが、「ひろがる！つたわる！オルガンのひびき」（人材養成2）は、コロナ対策のため、ワークショップ形式から鑑賞主体の参加型コンサート形式に変更した。「Kitaraファースト・コンサート」（普及啓発1）に参加できなかった10校の小学校に対し、コンサートの無観客公演動画を公開し、学びの機会を失わないように努めた。このように、音楽文化がより多くの人々にとって身近に感じられる事業や子どもたちの育成事業に積極的に取り組み、地域社会の基盤となるような多彩な事業を展開することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>■文化的意義</p> <p>世界屈指の音響を持つホールを使い、世界的に著名な演奏家の公演やリスト音楽院教授によるセミナーの開催、札幌の貴重な音楽財産である札幌交響楽団や北海道出身の指揮者の起用など、市民、道民の芸術鑑賞環境の向上に大きく貢献してきた。また、助成金により「Kitaraのバースデイ」（公演1）等、創意工夫を凝らした独自プログラムに挑戦することもでき新しい客層の開拓につながり、誰もが気軽に音楽と出会える場の創出が図られ、文化・芸術の水準向上に寄与した。</p> <p>■社会的意義</p> <p>未就学児の入場可能な公演の実施により、普段、公演に来ることが叶わないファミリー層へ文化・芸術の機会を提供することができた。「障がいのある児童を対象とした音楽ワークショップ」（普及啓発7）では、参加児童や保護者の楽しそうな様子から、音楽体験が大きな刺激となり文化芸術活動に対し興味を抱いたと感じており、アンケートでも「普段見ることができない子どもたちの表情を見ることができた」といった回答が多数あった。また、職員も障がい者に対する合理的配慮の必要性を学ぶ良い機会となった。</p> <p>■経済的意義</p> <p>「Kitaraあ・ら・かると」（普及啓発1）や「アフタヌーンコンサート」（普及啓発3）では、親しみやすいプログラムや来場しやすい時間帯の設定及び低料金で魅力ある公演になるよう工夫した結果、完売となった。また、ホール内のレストランと連携し期間限定メニューのコラボを行ったり、「Kitaraあ・ら・かると」期間中には地域レストラン等の出店など、地元経済への波及効果にも努めた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(1) 公演事業<4事業>

目標：世界屈指のホール音響と国内外に広がるネットワークを有効活用し、芸術性と独自性に富んだ公演の鑑賞機会を提供する。

指標	目標値（事業平均）	実績（事業平均）
①入場者数および入場率	1107.5名／66.4%	1186名／71.8%
②市民への質の高い芸術鑑賞機会の提供（顧客満足度）	88.8%	91.5%
③ホール独自の企画の実施	—	—
④新たな聴衆の開拓（初来場者および市外からの入場者）	8.8%／19.3%	15.1%／14.1%
⑤若年層へのアプローチ（「U25」シート購入率）	10.8%	13.5%
⑥効率的な事業運営・経費の執行（事業費支出に対する入場料収入の割合）	57.5%	57.1%
⑦友の会組織の活用（Kitara Club会員のチケット購入率）	50.0%	37.5%

指標①・②・④（初来場者数）・⑤は目標達成。指標⑥についても概ね達成することができた。指標③については、来場者アンケートや地元評論家による評価を指標としているため数値では算出していないが、公演の特色をいかしたプログラム及び演出内容等、全ての公演において好評をいただき、満足度を高めることができた。指標⑦については、人形劇とのコラボ、若年層への低価格チケットの販売等、新たな顧客開拓が図られた結果、初来館者のチケット購入が多くなり、既存会員の購入割合が減少した。

(2) 人材育成事業<3事業>

目標：参加者同士が交流を行う中で研鑽を積み、音楽への興味を伸ばす自発性・自主性を促す事業提供に努める。

指標	目標値（事業平均）	実績（事業平均）
①入場者数および入場率	557名／63.5%	859名／75.3%
②参加者・観客満足度	90.6%	87.5%
③地域の音楽文化への貢献／市民への発表の場の提供と音楽の普及／音楽で人を育てる人材の養成	40%	38%

指標①は目標達成。指標②及び指標③についても概ね達成である。特に指標③については、事業番号1において優秀受講生の半数が市内及び道内関係者が占めたこと等から、地域の音楽文化資質向上に寄与することができた。

(3) 普及啓発事業<7事業>目標：より多くの市民が音楽に親しめるよう、気軽に足を運べるきっかけを創出する。

指標	目標値（事業平均）	実績（事業平均）
①入場者数および入場率	4,968名／67.3%	3,951名／70.8%
②新たな聴衆の開拓（初来場者および市外からの入場者）	20%／15%	36.8%／13.9%
③顧客満足度	85.0%	93.6%
④若年層へのアプローチ（「U25」シート購入率）	14.3%	16.2%
⑤効率的な事業運営・経費の執行（事業費支出に対する入場料収入の割合）	40.0%	104.1%

指標①については、事業番号1が天候やコロナ感染状況により見込みの7割程度にとどまったことから目標に達しなかった。一方で、指標②（初来場者）・③・④・⑤は目標達成。特に指標③は全公演において目標値を上回っており、バラエティに富み充実した内容の事業を市民に提供することができたほか、指標⑤については、創造的なプログラムの高評価等によるチケットの完売により、目標値を大きく超える結果となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

(1) 公演事業 (要望書予定/実際に行った期間)

- ①令和4年7月2日(日)15:00/変更なし ②令和4年12月24日(土)15:00/変更なし
③令和5年1月14日(土)15:00/変更なし ④令和4年6月4日(土)・5日(日)/変更なし

(2) 人材育成事業 (要望書予定/実際に行った期間)

- ①令和5年2月22日(水)~27日(月)/変更なし・令和5年2月17日(金)19:00/令和5年2月18日(土)14:00
②令和5年1月28日(土)14:00/変更なし ③令和5年3月11日(土)15:00/変更なし

(3) 普及啓発事業 (要望書予定/実際に行った期間)

- ①令和4年5月3日(火祝)~5日(木祝)/変更なし
②令和4年10月13日(木)・14日(金)・25日(火)~28日(金)/変更なし
③令和4年6月12日(日)14:00・8月13日(土)15:00・9月23日(金祝)14:00・11月12日(土)14:00/変更なし
④令和4年6月~令和5年2月/令和4年7月21日(木)・9月2日(金)
⑤令和4年12月17日(土)17:00/令和4年12月17日(土)15:00
⑥令和4年5月中旬~6月・令和4年6月・7月/令和4年5月30日(月)・6月21日(火)
⑦秋頃の時期で調整中/令和4年9月14日(水)

◆事業期間に関しては適切であった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

(1) 公演事業

要望書予算:収入15,159,000/支出26,030,000、実績報告書決算:収入14,770,712/支出22,830,149(単位円)

事業番号1では、第二部の人形劇における舞台機構、衣装、照明演出を充実させるため、当初計画していた舞台費が要望時の予算を大きく上回る支出となった。一方で、クラシックコンサートの枠を超えた魅力ある公演内容によりチケットが前売りにて完売し、入場者数は1,376名と目標を上回るなど、来場者の満足度が高い公演を実施することができた。その他の公演については、概ね要望書の計画通りに費用の執行ができた。

(2) 人材養成事業

要望書予算:収入4,351,000/支出12,298,000、実績報告書決算:収入5,325,000/支出10,498,002(単位円)

事業番号2は、参加する子供たちの感染リスク回避のため、当初予定していたワークショップ形式から、鑑賞をメインとした参加型コンサート形式に変更した。パイプオルガンの演奏及び、当ホール所有のポジティブオルガンとの音色の聴き比べのほか、奏者の手元や足元を複数台のカメラで捉えて大型スクリーンへの投影、札幌コンサートホールとの連携館であるりゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館から借用したスケルトンオルガン模型を用いて、ステージ上でオルガンの仕組みを説明するなどの多彩なプログラムを実現するため、当初計画にはなかった機材費の支出が生じたことにより要望時の金額から乖離があった。一方で、公演の内容に対する来場者の満足度は高く、こどもたちに上質な音楽体験を提供することができた。

(3) 普及啓発事業

要望書予算:収入36,503,000/支出52,135,000、実績報告書決算:収入38,404,633/支出45,303,028(単位円)

想定を超えるチケット売上による収入増、新型コロナウイルス感染症の影響による出演者減及び広報活動の工夫により経費が削減され、要望時と決算時に乖離が生じた事業があった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) 札幌のニーズ、Kitara の強み

・市内、道内に留まらず世界的にも最高峰の音響を活かした音楽ホールとして、トップクラスのオーケストラや室内楽、ソリストのコンサートを実施し高品質な音楽を市民・道民に提供している。また、道内唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団の拠点ホールとして、全国的にトップレベルの水準にある市内学校の合唱部・吹奏楽部等を起用したコンサート等、地域の音楽文化の拠点としても広く市民に親しまれている。

・地域の拠点施設として、地元の音楽団体、大学等の教育機関、文化施設とも連携した事業を広く展開し、様々なプログラムを提供している。令和4年度は当財団が指定管理する他施設との連携事業に積極的に取り組み、音楽と人形劇のコラボ等、創造的なプログラムを実現し、音楽文化の新たな可能性を提供することができ好評を博した。また、専属オルガニストをヨーロッパから招聘し、ホールのシンボルでもあるパイプオルガンを活用した事業を多角的な観点から各種実施し、市民に対し広くオルガンの普及・振興を図っている。

(2) 採択事業における専属・連携団体・連携施設の存在

ホールが独自に築くネットワーク（地元オーケストラ、他地域の連携館）の活用により、地域間の交流から生まれる特色ある事業を実施した。

令和4年度採択事業の専属オルガニスト・連携団体・連携施設は以下の通り。

●公演事業

- ・地元劇場と当財団他施設との連携：**事業番号1**
- ・地元プロ・オーケストラ（札幌交響楽団）の出演：**事業番号2、3**
- ・「コンサートホール企画連絡会議」のネットワークの活用（アクロス福岡との連携事業）：**事業番号4**

●人材養成事業

- ・海外の高等教育機関・音楽祭事務局、地元音楽大学との提携によるセミナー事業：**事業番号1**
- ・「コンサートホール企画連絡会議」のネットワークの活用（新潟りゅーとぴあ）：**事業番号2**
- ・地元音楽家を活用した音楽教育活動：**事業番号3**

●普及啓発事業

- ・地元教育機関（市内中学校、市内音楽大学）との連携、地元プロ・オーケストラ（札幌交響楽団）の出演：**事業番号1**
- ・地元教育機関（市内、近郊の小学校）との連携、地元プロ・オーケストラやホール専属オルガニストの参画を促した普及プログラムの実施：**事業番号2**
- ・他ホールとの連携（びわ湖ホール声楽アンサンブル～びわ湖ホールとの連携事業）、「コンサートホール企画連絡会議」のネットワークの活用（東京六人組公演～所沢ミュージズ、アクロス福岡との連携事業）：**事業番号3**
- ・地元教育機関（市内小学校）との連携、地元音楽家を活用した音楽教育活動：**事業番号4**
- ・地元教育機関（市内高等学校）との連携：**事業番号5**
- ・地元音楽大学との連携：**事業番号6**
- ・地元教育機関（市内特別支援学校、支援学級）との連携：**事業番号7**

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

(1) 実施事業の企画内容、芸術性について

●公演事業

・令和4年度は異なったジャンルとのコラボ、邦楽と洋楽の融合等、クラシック音楽への関心が低い顧客層にアプローチできる魅力的なプログラムの実施に取り組んだ。**事業番号1**は、専属オルガニストによるオルガン音楽と北海道出身の世界的な人形劇師 沢 則行による巨大人形及び映像の演出により、シェイクスピア原作「夏の夜の夢」を上映した。**事業番号3**は、マルチに活躍する指揮者、鈴木 優人を迎え、箏曲界の新星として注目を浴びているLEOによる新年にふさわしい華やかな公演を実施した。その結果、初めての来場者が増加したほか、日頃は子どもと一緒に来場できないファミリー層の来場も多く、新たな観客の開拓につながった。

●人材育成事業

・**事業番号1**は、「リスト音楽院」と連携したこのセミナーは25回目を迎え、3年ぶりにハンガリーから講師を招聘し、世界的な音楽家の指導を受けられるセミナーとして全国から応募があったが、特に、地元で音楽を学ぶ受講生にとっては札幌で世界レベルの音楽教育を受けられる貴重な機会であること、最優秀受講生はブダペストで開催される音楽祭に派遣されることなど、貴重な経験を積む機会の提供及び資質向上にも寄与している。

・専属オルガニストを擁する当ホールでは、市内、国内のオルガン音楽の振興にも取り組んでおり、**事業番号2**ではオルガンのパイプや模型、映像投影を行いながら、子どもたちに音が鳴る仕組みをわかりやすく説明し、オルガンの魅力を伝えた。

・**事業番号3**は、地元音楽家で組織する札幌音楽家協議会とキタラが連携して、当該演奏会のために組織した室内オーケストラと合唱団による合同演奏会を行い、地域の音楽家に対する活動支援をすることができた。

●普及啓発事業

・**事業番号7**は、札幌市及び教育委員会と連携し、特別支援学校及び支援学級の児童を対象に音楽ワークショップを実施した。障がいに合わせてプログラムは参加者（児童、親、教員）から高評価を得た。障がい者も楽しめる音楽事業の普及に向け、今後も効果的なプログラムの検討を行っていく。

・アウトリーチ及び講習会を通じ、オルガン音楽の振興を図った。**事業番号4**は、演奏プラス、オルガンの構造や歴史などのお話も交え子どもの興味関心を高められるよう工夫した。また、リコーダーとの合奏を通して、演奏の楽しさを実感してもらうことにつながった。**事業番号6**は、地元音楽大学と連携し、授業の一環として実施。専属オルガニストが講師となり講義及び演奏も交え、オルガン教育の普及に取り組んだ。

・音楽の力で子どもを育むため、**事業番号2**は、市内及び近郊の小学6年生が楽しみながら音楽教科を身に着けられるよう、毎年、曲目や内容を検討しており、令和4年度は楽器の音色を聴き比べるコーナーを取り入れた。

・音楽の楽しさをより幅広い人に伝えるため、**事業番号1**は、ゴールデンウィーク3日間のホール開放事業「Kitara あ・ら・かると」を開催し、3歳、5歳から入場できるコンサート、市内中学校の吹奏楽部によるコンサートのほか、バックステージ見学会、オカリナづくり体験など、ホールを気軽に楽しんでいただけるメニューを展開し、ファミリー層の来場につながった。**事業番号3**は、来場しやすい日時設定、親しみやすいプログラム、併設レストランとのタイアップにより、幅広い層の来場につながった。

・**事業番号5**は、市内高校合唱部と専属オルガニストとの共演が国際交流のきっかけとなったほか、同時期に開催している「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」とのタイアップにより、観光客をホールへ誘致する試みを行い、観光との連動にも繋げることができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(1) 事業運営について

・令和4年度の事業は概ね計画通りに執行できたほか、アンケート及び地元芸術家等の意見を踏まえ企画したプログラムが好評で目標以上の集客に繋がった。令和5年度も当財団の他施設と連携した事業等、新たな企画も予定しており、引き続き、市民のニーズを踏まえ、新たな観客層の拡充にもつながる事業の実施を図っていききたい。

・事業の安定的な運営には収入確保が不可欠であり、チケット購入率の高いキタラクラブ会員の増加は効果的であると考えているが、会員の高齢化により減少傾向にある。そのため、SNSの活用を考慮して令和3年度に立ち上げたアプリ会員は無料ということもあり若年層の入会が増えている。一定の成果は出ているものの、より収益性を高めるために、今後はアプリ会員をキタラクラブに移行していけるよう働きかけていきたい。

・当ホールでは、様々な事業を運営するために市民ボランティアを活用しており、既にいくつかの事業については主要な役割を担っていただいている。今後もボランティアとの意見交換を図りつつ連携を深め、協力して円滑な事業運営を実施していききたい。

(2) 経営戦略について（財源の確保）

・ホールの稼働率について、主催事業はほぼコロナ禍以前の状況まで回復しているが一般利用がまだ低い状況である。今後は利用者が安心して利用できる施設管理に努めるとともに、稼働率を向上し貸館収入の増加を図りたい。

・令和4年は新しい企画による公演が好調で入場料収入が増加した。今後も情報収集とニーズ把握に努め、魅力ある事業を展開し収入増加を図る。また、スポンサー協賛金及び各種助成金の獲得にも努めていきたい。

・支出については、必要経費の見直しを図り効率的な執行に努めたが、引き続き削減を一層推進していく。

(3) 人事戦略について

・財団の人事管理方針に則り、職員の人材育成を図っていく。財団では令和5年度施行に向け、経営方針「中期経営計画」を策定し、研修の充実等、職員の能力、意欲向上を図ることとしている。令和4年度は外部講師による企画運営を担う人材養成研修を行い、職員の専門性の向上を図ったが、特に広報分野で研修の成果が現れ、様々な媒体への広告展開によりチケット販売が増加した。今後も研修等を通じて人材育成を推進していく。

・事業実施の職員体制は、主担当・副担当を配置し、ベテラン職員が若手職員にノウハウを継承しながら、チーム全体で事業を運営している。また、当財団は6つの芸術文化施設を運営しており、人事異動を通じて、他施設での経験を活かした発想や意見を取り入れたオリジナリティ溢れた事業企画を行い、集客増につなげている。今後も職員の意欲向上を図り、職員の意見交換を活発化し、事業の企画運営を図っていききたい。

(4) ネットワークの構築（他施設、地元の団体・教育機関との連携）

・「ダネル弦楽四重奏団」（公演4）、「アフタヌーンコンサート」（普及啓発3）は、全国の類似公立ホールとして交流のあるアクロス福岡、びわ湖ホール、所沢ミュージズと連携し開催した。共同で事業を企画制作することで、制作費を節減するとともに音楽家の交流の場とネットワークの構築に繋がった。次年度以降も各地のホールとの定期的な会議を通じて情報交換に努め、連携事業の実施を図りたい。

・「札幌の奏響（ひびき）Ⅲ」（人材養成3）は、札幌音楽家協会と協同しオリジナリティ溢れる公演を提供することができた。今後も地元音楽家の活動を支援することで、地域の音楽文化の活性化と演奏家のレベルアップに寄与していききたい。